



発行 福島東高等学校同窓会
 住所 福島市浜田町12-21 (024) 531-1551
 発行人 尾形幸男 先生
 編集 尾形幸男 先生
 印刷 尾形幸男 先生

三〇年の重み

福島東高等学校同窓会会長

尾形 幸男



平成二十二年六月二十五日、福島東高校創立三〇周年記念式典が県文化センター大ホールで開催されました。この日を迎えるにあたり、実行委員会の方々ははじめ、御支援、御協力をいただきました多くの関係者の方々に心から感謝を申し上げます。また、厳しい経済情勢の中、この事業の趣旨に賛同し協賛金をいただきました方々には、東高への熱い想いを感じることがで

きつれしい限りであります。本当にありがとうございます。この式典は単なる式典ではなく、今までの東高を支えて下さった方々の人生を映し出すとともに、これからの東高の道しるべとしての式であり、意義のあるものになりました。また、我々実行委員は、この記念式典を「東高校の歴史を刻むために非常に意義のある行事」と位置づけて準備をして参りました。東高は創設時より県教育委員会から多大なる支援を受け、歴代校長先生が確かなる道筋を立ててくださいました。東高を支え、その発展を心から願っていたいた関係者の想いが三〇年とい

う歴史の中にたくさん詰まっています。三〇年という浅い歴史ではありますが、その間、教鞭を取られた先生方、影から常に生徒を支えてくださっている「父母と教師の会」をはじめとする関係各位、そして、本校で学ぶことを自らが望み、人間として多くのことを学んできた同窓生と在校生にとって、東高は、計り知れない存在となりました。創設から関わり、私も大変お世話になった恩師が「東高の先生方の絆は強い。いつまでも、東高を支えていかなければいけない」と自然に思っている。何かあったらいつでも言うて来いよ。みんなでバックアップしてやるからな。」と言ってくれたことは今でも忘れられません。また、ある先生は「スポーツと文化祭で盛り上がる生徒が多い学校は、雰囲気がよくて、心地良い。」と話していました。確かに東高

は、我々の時代から、球技大会や文化祭は異常な盛り上がりでしたし、今では、インターハイ等地元開催で決勝まで勝ち上がった部活動への「全校応援」は当たり前前の行事になっているようです。更に、十六期生からの女子入学が東高には追い風となり、その盛り上がり加速させてくれています。私は、同窓会という窓をとおして、卒業してから東高を見続けることのできる特権を与えていただきました。まさに、三〇年の時の流れは、着実に東高の礎を築き上げてきたのです。創立三〇周年を迎えるにあたり、これまで東高の為に御尽力をいただいた方々への敬意を大切に、福島東高校を誇りに思える喜びを感じなければなりません。そして、東高は今後も大きく変化する社会情勢、教育環境、生徒、保護者、そして教職員に適応し、本校独自の「不易と流行」を見極めながら、その存在価値を高めていかなければならないと思うのです。



ととなりました。我々が明日に向かつて行うべきことは、どんな変化にも柔軟に対応しながら、その想いを確実に引き継いでいくことだと思っております。今後も、東高のために、同窓会の果たすべき役割をしっかり見極め活動を続けていきますので、御理解、御協力の程、何卒よろしくお願いいたします。最後に、今回の第七号発刊にあたりましては、多くの方々から執筆等、御協力をいただいております。関係各位に心から感謝申し上げます。

三〇年の時を越えて

福島東高等学校長 平岩典男



同窓生の皆様には、お元気で活躍のこととお慶び申し上げます。

平成二二年六月二五日、絶好の天気のもと、福島県立福島東高等学校創立三〇周年記念式典が県文化センターにおいて厳粛かつ盛大に開催されました。式典においては、同窓生、在校生、教職員が心を一つにして、校歌を斉唱し、本校の新たな飛躍を誓いました。

本校の歩みを回顧する時、その道は決して平坦なものではありませんでした。昭和五五年四月に開校した本校。開校以前の準備段階として開校後の草創期において、新しい学校づくりに取り組まれた方々の情熱は計り知れないものがありました。開校当時、本校舎がまだできていなかった東高。一期生は福大教育学部から払い下げられたプレハブの仮設校舎でスタートを切

りました。先生方の熱い指導を受けた一期生は、東高校の文武両道の礎を築いた第一走者でありました。昭和五六年四月には新校舎への移転、同年六月には待望の校歌が制定されます。その後、体育館、プール、南校舎の建設等、県当局の惜しみない援助のもと施設設備の充実が図られ、県都にありながら非常に恵まれた教育環境が整っていきます。また、東桜祭、マラソン大会、校内スポーツ大会など多くの行事が生まれ、それら行事に取り組む生徒たちの姿はまさに本気で真剣そのものでした。昭和五九年には六学級から八学級編成となりますが、開校以来一貫して、勉学や部活動に精励する生徒たちのひたむきに努力する姿がありました。つねに「生徒のため」を思う、教職員の情熱溢れる指導がありました。東高校の黎明期は、生徒たちが文武両道に励むとともに進学校としての実績を着実に築いていった時代でありました。

男子校として着実に歩んできた本校にとって、大きな転換期となったのが、平成七年の男女共学化への対応でありました。平成五年一〇月の県教委の内示を受け、校内に男女共学化検討委員会が設置され、「文武両道の進学校としての歩みを堅持し、女子が加わるにより更なる飛躍ができる高校としていくこと」の基本理念が確認されました。解決すべき諸問題（制服、教育課程、生徒心得・生徒会組織、施設設備、学校行事等）についても五つの小委員会を設け、細部にわたる検討がなされていきます。そして、様々な課題を解決しながら、平成七年四月から男女共学校がスタート。本校初の女子生徒一二四名はあどけなさを残しながらも、気後れせず東高生の一員として第一歩を踏み出し、本校の新たな発展の大きな力となります。共学化から早くも一六年目を迎えますが、共学化の時に採用された男女混合名簿は、何ら支障もなく現在に至るまで使用されています。また、共学化後の生徒たちの国立大学現役合格者数は毎年一〇〇名を超えるなど、確かな実績を残しているのです。

共学化後の本校にとって、新たな課題となったのが平成一四年四月からの学校完全週五日制の実施、平成一五年度実施の改訂学習指導要領等への対応でありました。そこで考えられたのが、四五分七校時です。授業は五〇分を標準としているため、課題は山積していました。しかし、生徒、教職員が紆余曲折を経ながらも課題を克服し今日に至るのです。開校以来守られてきた授業を大切にする姿勢は、今日でもチャイムへのチャイム、完全授業の実施などとして受け継がれています。

三〇年の歩みを通して、本校は、校歌で歌われる「新しい伝統」を着実に築いてきました。しかし、これからの東高を考える時、順風満帆とはいかない状況があります。少子化という嵐が吹き荒れる中、東高らしい学校づくりを推し進めることが求められるのです。これまでの本校の歩みがそうであったように、生徒、教職員が一体となって果敢に課題解決に挑戦して行かなければなりません。そして、開校以来、文武両道を一貫して進めてきた本校がその原点を忘れることなく、一層魅力ある学校へと前進するためにも、同窓生の存在とお力が何よりも頼りになるところであります。

創立三〇周年記念行事の実施主体は実行委員会でありましたが、その中核を担っていただ



たのが尾形会長を初めとする同窓会の皆様でした。在校生の活動を支援するというコンセプトのもと、数々の記念行事を展開していただきました。進路指導システム整備、グラウンド照明整備、楽器購入等の記念事業は生徒たちの諸活動を支え、また記念式典、樋口達哉氏の記念公演、様々な職業人に聞く等の記念行事は生徒たちの心に感動を与えるとともに生徒たちの意欲を喚起していただきました。

三〇年の時を越え、この春に二九期生が卒業すると同窓生の数はついに一万人を突破することになります。東高を卒業した同窓生は社会の中でなくてはならない存在であり、お一人お一人が社会に大きく貢献されています。と同時に、同窓生の皆様

福島県立福島東高等学校同窓会規約

[名称および事務局]
第1条 本会は福島県立福島東高等学校同窓会と称し、事務局を福島東高等学校内におく。

[目的および事業]
第2条 本会は会員相互の親睦を図り、母校の発展に寄与することを目的とする。

第3条 本会は次の事業を行う。
1. 総会の開催
2. 会員名簿・会報の発行
3. 母校の後援
4. その他本会の目的達成に必要な事項

[会 員]
第4条 本会の会員は、本校卒業生並びに本校の退転校者で総会に承認された者とする。

[役 員]
第5条 本会に次の役員をおく。
1. 会 長 1 名
2. 副会長 4 名
3. 理 事 若干名
4. 監 事 3 名
5. 幹 事 若干名
第6条 役員は次のとおりとする。
1. 会長・副会長および監事は会員中より理事会において推薦し、総会で決定する。

2. 幹事は卒業年次毎に各クラスから2名を互選する。
3. 理事は幹事の中から会長が任命する。
第7条 役員は次のとおりとする。
1. 会長は本会を代表し、会務を総理する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時は職務を代行する。
3. 理事は会の運営にたずさわり、会務を処理する。
4. 監事は会計を監査する。
5. 監事は他の役員を補佐し、会務運営の推進をはかる。
第8条 役員は任期は2年とし、再任を妨げない。

[顧問]
第9条 本会に顧問をおく。顧問は会長が委嘱し、会長の諮問に応ずる。

[総 会]
第10条 総会は会長が召集し原則として年一回開く。ただし、会長が必要と認めた時は臨時総会を開くことができる。

第11条 総会では次の事項を審議し決定する。
1. 事業報告並びに決算の承認
2. 事業計画並びに予算の承認
3. 役員選出
4. 規約の改廃
5. その他重要な事項

第12条 総会の議事は出席者の過半数を持って決定する。
第13条 総会はその権限の一部を理事会または会長・副会長・監事と構成される役員会に委任することができる。

[理事会]
第14条 理事会は会長・副会長・監事・理事をもって構成する。
第15条 理事会は会長が召集し、本会運営上必要な事項を審議・決定するとともに本会の業務の執行にあたる。

[事務局]
第16条 事務局は関係表簿を備え、庶務、会計を執行する。
第17条 事務局はその業務の一部を母校職員に委嘱することができる。

[会 計]
第18条 本会の経費は入会金・終身会費・寄付金・その他の収入でまかなう。
第19条 本会は入会に際し、入会金2,000円・終身会費3,000円を納入する。
第20条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月末日までとする。
第21条 年度会計決算ならびに年度予算案は会長・副会長・監事の了承をもって総会の承認にかえることができる。

附 則 この規約は昭和58年2月28日から施行する。
この規約は平成17年2月26日から改正する。

平成21年度 歳入歳出決算書

歳入金額 2,791,686円
歳出金額 2,768,258円
差引残額 23,428円

Table with 7 columns: 項目, 当初予算額, 繰入額, 現計予算額, 決算額, 増減, 備考. Rows include 入会金, 会費, 前年度繰越金, etc.

Table with 7 columns: 項目(科目), 当初予算額, 流用額, 現計予算額, 決算額, 残額, 摘要. Rows include 総務費, 会議費, 旅費, etc.

* 項目科目間の流用を認める。

平成22年度 歳入歳出予算書

歳入金額 2,716,000円
歳出金額 2,716,000円
差引残額 0円

Table with 5 columns: 項目, 22年度予算額, 21年度予算額, 比較増減額, 備考. Rows include 入会金, 会費, 前年度繰越金, etc.

Table with 5 columns: 項目(科目), 22年度予算額, 21年度予算額, 比較増減額, 備考. Rows include 総務費, 会議費, 旅費, etc.

* 項目科目間の流用を認める。

創立三〇周年記念事業について

記念行事を終えて

今野 充宏

二期生の私が母校である東高に日本史の教員として戻ってきた七年が経とうとしている。私が教員になったのは、担任であった日本史の斎藤和也先生、剣道部の顧問であった橋本邦夫先生、星本文先生など東高で教えをいただいた先生方に強く影響されたからである。また、福島県の教員を選出したのも仲間たちと楽しく過ごした東高の教壇に立ちたかったからである。東高がなければ今の私はない。

最初の後輩は二期生。優秀な生徒だった。二四、二五期生には「日本史を教えることの楽しさ」を教わった。特に二四期生とセンター試験後に約束をしたことは私の生涯のモチベーションである。二六期生には後輩を担任するという喜びを与えてもらった。幸せな担任だった。二七、二八、二九期生には教員としての覚悟をもたせてもらった。私は後輩たちに幸せな教員生活を送らせてもらっている。私が高校生として過ごした東高と今



を比べると、もちろん個人差はあるだろうが、今の生徒の方が勉強に部活動に数倍以上努力している。素晴らしい後輩たちがあの学舎で東高創立以来のモットーである「文武両道」の実践に努めている。しかも高いレベルで。

創立三〇周年を機会にがんばる後輩たちを支援することが記念行事実行委員会の基本的なコンセプトであった。そのために、グラウンドの照明施設を整備したり、進路指導システムを整備したり、吹奏楽部の楽器を購入したりした。また、後輩たちに我々先輩が社会で働く姿を見せ、将来を考えるきっかけになってくれることを目的として今年度の総合的な学習の時間「様々な職業人に聞く」では三十一名の同窓生に講師を務めてもらった。そして、記念式典後の公演では、オペラ歌手として国内外で活躍中の樋口達哉さん(六期生)に本物の歌声を聞かせていただいた。合唱部と吹奏楽部とのコラボレーションで歌われた「トウワランドット」の感動は今でも忘れることができない。これらの行事が成功に終わったのはひとえに東高に関わる人々の東高への愛のおかげであったと思う。

毎年恒例となった剣道部のOB・OG会が一月二日に開催された。ここで三期生の川上敦さんが会長に選出され、今後後

輩たちを物心両面にわたって支援していくことが決定された。来賓としてご出席いただいた原田啓一先生の「東高生は素晴らしい。素晴らしい先生方と素晴らしい環境で過ごした三年間を自信にして欲しい。東高の卒業生であることに誇りをもって生きて欲しい」というお話に胸が熱くなった。そして、自分自身教員として愛する母校に勤務できる喜びを感じ、後輩たちの高校三年間が充実したものとなるようサポートしていかねばならない、という思いをさらに強くした。剣道部以外でも多くの部でOB・OG会があり後輩たちを支援しているという話を聞く。このように先輩ががんばる後輩を応援する体制が広がっていけば、東高はもっとと素敵な学校になるだろう。

「東高応援基金」協賛者名

()は卒業期

○「東高応援基金について」

文武両道に全力で取り組む後輩達に金銭的な支援を行うことを目的に平成十七年度から始めたこの事業に多くの同窓生にご賛同いただきありがとうございます。今後の在校生支援を継続して行く財源の確保のため、この「東高応援基金」へさらに多くの同窓生の方にご協力をいただきますようお願いいたします。同封した振込み用紙にてお願いします。その際、おわかりになっていけば、卒業年度もしくは何期かをご記入下さい。

なお、ここ数年にわたって福島市役所の職場同窓会である福島市役所東桜会から、部活動支援のためにという趣旨で多額のご寄付があります。これは部活動支援のための後援会計に繰り入れ活用させていただいております。このような職場同窓会の活動に心より感謝申し上げます。

- 落合範文(1)三浦信彦(1)高橋宏昌(1)久保芳宏(2)佐藤雅裕(2)穴戸英樹(2)真柴毅(2)津田昌泰(2)渡辺伸一(2)尾形典良(3)紺野信幸(3)佐々木晋一(3)寺島健吾(3)西條正美(3)渡辺伸克(5)伊藤哲(5)手塚健一(5)渡辺裕哉(5)滝本裕彦(6)山川毅(6)

- 山岸竜大(7)寺田和也(7)大波哲也(7)河原慎治(8)二文字屋哲(8)小林孝雄(8)東城幸治(8)菅野博文(9)立花純孝(9)鈴木勇人(9)加藤芳史(10)三浦和幸(10)五十嵐潤(10)小野洋正(10)林容市(10)佐藤智頭(11)菅野貴洋(11)宮崎康弘(11)佐藤喜也(11)松野哲郎(14)秋葉征典(14)遠藤啓文(14)菅野元樹(15)二文字屋剛(15)山田俊嗣(15)長谷川泰夫(16)高橋裕治(16)嶋原智宏(17)松野大悟(17)上杉光成(17)笠原弘毅(18)高橋歩(19)渡邊祝子(19)蓬田史徳(19)石幡乾(20)古山由佳(20)笠原敬男(20)野崎友大(20)阿部真治(20)後藤あゆみ(21)齋藤広彰(21)清和敬子(21)山本拓也(21)佐藤宏樹(22)竹内大崇(22)菅野真奈美(22)佐藤梨奈(22)矢吹友紀(22)久保田智之(22)法澤真之(22)矢館実典(23)水口秀一(23)阿部尚徳(23)紺野雄太(24)薄井智之(24)藤森良仁(24)二階堂学(24)加藤千裕(25)阿部隆徳(25)坪谷洋平(25)宮本圭太(25)菅野拓也(25)菅野玲(25)加藤智弘(25)佐藤詠子(25)鈴木亜季子(26)長沼舞(26)千代間祥之(26)八巻康平(26)紺野友里絵(26)佐藤裕次郎(26)亀山光輝(27)笠原聡(27)佐藤雅尚(27)
- 平成二十一年四月一日から平成二十二年三月三十日まで振り込みがあった方を掲載しました。保護者名で振り込まれた場合は生徒名で報告させていただきます。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。氏名等の誤りがありましたら、事務局まで一報下さい。

年度別 現役合格者 延べ人数

Table with 11 columns: 卒業年度 (S57-H3), 学級数, 卒業者数, 国公立大, 私立大. Rows include S57-H3, H4-H12, H13-H21.

Table with 10 columns: 卒業年度 (H4-H12), 学級数, 卒業者数, 国公立大, 私立大.

Table with 10 columns: 卒業年度 (H13-H21), 学級数, 卒業者数, 国公立大, 私立大.

(表1)

大学別合格者数 (平成21・20・19年度入試)

Table with 4 columns: 大学名, 平成21年度生, 平成20年度生, 平成19年度生. Lists various universities and their student counts.

Table with 4 columns: 大学名, 平成21年度生, 平成20年度生, 平成19年度生. Lists various universities and their student counts, categorized by school type (私立, 国立, 公立).

現役大学等進学率…平成21年度生(73.6%)、平成20年度生(90.6%)、平成19年度生(87.9%)

進路



進路指導主事 渡邊 幹男

二八期生の進路状況について 説明いたします。 センター試験の難化、地元国公立大志向の高まりによって、本校二八期生にとっては大変厳しい受験状況となつてしま...

徒が合格したことは、大変健闘したのではないかと思います。 また、二八期は公務員希望者が多くいたことも特筆すべきこと...

(表2)

のです。

同窓生の中でも二〇代後半・四〇代の方から「大学を受験するので調査書がほしい」と、依頼を受けることが今年は数多くありました。卒業後、五年以上経過した場合、「調査書」ではなく、「成績証明書」で代行することができません。必要になった場合は遠慮なく母校にお問い合わせください。

28期総括



28期学年主任
齋藤 靖

靖

一、はじめに

未履修問題が全国的に広がり、本校でも二学期末からその対応に追われた二十五期を卒業させた後、続けて二十八期学年担任となった。卒業生と新入生というたった三年の時間の差は教科担当としてよりも大きく感じた。集まった二十八期学年の担任団は年齢的にも生徒と近く、生徒に寄り添った指導が可能である。「ああしたい、こうしたい」という思いを遠慮せずに言えて、新しいこと（新しい伝統）に学年全体で取り組んでいこうと考えた。

二、二十八期のスタート（高一のあの頃）

二十八期では、入学当初に実

施していたオリエンテーション合宿に変わり、学習方法体験学習会を実施した。これは、「予習」「授業」「復習」のサイクルを一日の授業の中で続けて実施することで、その効果を実感してもらうことが目的の一つである。進学校である本校生は、授業当初の適切な指示により高校の授業に対応出来る生徒がほとんどであるが、受験間際になつて学習方法が分からないと訴える先輩も少なからずいたことや長期休業明けに行うことで、休みから授業へ早期に切り替えさせることが目的であった。

また、入学式直後から登校できなかつた生徒が出てしまった。残念ながら顔を見ることがない入学生は初めてである。中学時代から休みがちであったというわけではない生徒でも、自分の思っていた東高のイメージと実際との差、入学当初の友人関係に悩む生徒、親との関係など、登校できなくなつてしまつた生徒の理由は様々である。これらの生徒以外にも、多くの生徒が休み時間の度に保健室を訪れ、保健の先生方を始め厚生部の先生方に大変お世話になった。

三、韓国での総合学習（高二のあの頃）

本校創立以来初となる「韓国への修学旅行」を実施した。二ユー

島への砲撃の報道がなされている。砲弾が発せられた場所だという北朝鮮の映像を見ると、朝霧が晴れた烏頭山統一展望台から漢江越しに眺望することができた北朝鮮の風景が思い出される。

平和、国際交流、自然、歴史など、修学旅行で二十八期生に学ばせたいことは何か、それが可能な候補地はどこかを検討し、アンケートも踏まえて韓国と決まった。当初は福島空港と仙台空港を利用する計画であったが、前年度の減便の影響を受けて成田空港利用となつたため、窮屈な日程となつた。その他いろいろな課題があつたが、韓国入学生ガイドも素晴らしく、生徒たちは初めて会つたガイドとも打ち解けて、積極的に自主研修に取り組むことができた。

四、進路実現に向けて（高三のあの頃）

三年生となり朝自習は継続して実施した上で、四月から希望者に対して前期朝課外を開始した。インターハイ県大会が終了した六月からは全員の登校時間を七時三十五分として七時四十分から朝自習の代わりに朝課外を実施するとともに、受験体制への早期切り替えのために、交代で廊下に立つて生徒に声掛けを行った。朝自習や朝課外を適切な時期に終了させて生徒たち

の自主学習を促すことも検討されたが、センター形式への慣れだけでなく、生活時間の朝型化やそれまでの頑張りを続けさせたい、インフルエンザによる遅れを少しでも取り戻したい、などのために十二月末まで朝課外を行った。生徒たちは早くなつた登校時刻に対応し、粘り強く朝課外に取り組んでくれた。

五、文化祭と新型インフルエンザ

新型インフルエンザは四月にメキシコで発生が確認され、県内にも大流行をもたらしした。本校への流行はちょうど文化祭の前後に当たり、本校創立以来初となる休校を含めて九月の授業日数が過去最短となつた。学級閉鎖後に休校となつたクラスもあり、各教科に期間中の課題をお願いして対応したものの、進学希望者にとっては大きな痛手となつた。拡大を防ぐには生徒が集まらないことが一番であり、学年集会はもとより、マラソン大会や冬季スポーツ大会も中止となつた。このような中にあつて、三年に一度の公開文化祭は開催が危ぶまれたが、インフルエンザの感染防止と拡大に最大限配慮することにより辛うじて開催することができた。クラス展示には、換気ができるようにしなければならぬなど制限がつけられたが、各クラスとも仮

装行列やクラス企画に一致団結し、東高生らしさを存分に発揮した。

六、成果と課題

例年より多い公務員希望者に対して講座等を行った。生徒たちは粘り強く取り組み、合格者は十名を数えた。合格者の中には受験勉強に切り替えて見事国公立大学に合格した者も現れた。進学希望者は、センター試験後もまだまだ頑張り続けなければならぬ生徒が多く、二次対策課外や小論文指導を後期試験まで諦めずに最後まで取り組んだ生徒は、わずかな可能性であつてもしっかりと合格を勝ち取つた。文武両道に取り組んできた本校生は、粘りが持ち味ということもできる。ある先輩の先生に、「大事なことは徹底して最後までやらせることだ」と言われた。全くその通りであると思つた。

七、結び

例年にも増して小論文や実技指導を希望する生徒が多かつた。本校には学校全体で三年生の進路実現のために協力しようという素晴らしい体制が受け継がれており、先生方には最後の最後まで指導していただいた。生徒がわずかな希望をつかむことができたのも、進路指導部を始め本校のすべての先生方のお陰であり、この場をお借りして御礼申し上げます。

全国大会出場報告

全国大会へ出場して

陸上競技部顧問 穂積 祐司

「捲土重来」を合言葉に昨年の九月から沖縄インターハイを目標としたトレーニングを開始しました。例年より二ヶ月あまり早いスタートでした。それといつのも新型インフルエンザの影響により、県新人大会の出場を辞退したためです。最初はなかなかモチベーションが上がらなかつたものの、徐々に三年生を中心にチームとしてのまとまりを感じるようになりました。陸上競技は個人競技ではありませんが、好成績を上げるためには部員同士の競争や部員が同じ方向性で練習に臨むことなど、チー



ムとしての一体感がとても重要であります。その後、新一年生を加え、良い状態に仕上がっていたGW中の練習で、まず県高校大会で男子総合優勝を目指すことを告げました。今年から優勝旗が新調され、最初にペナントを掲げるという歴史を作りたい為でした。結果として最後の四×四〇〇mリレーで二位以上に入らなければ総合優勝できない中、三位と百分の一秒差で二位になり、日大東北高校と同点でありましたが、優勝数の差で総合優勝を実現してくれました。

県大会が終了し一位を勝ち取った一〇〇mと四×一〇〇mリレー、走高跳の三種目で全国大会を狙いましたが、東北大会初日、まさかのオーバーゾーンで四×一〇〇mリレーは失格。チームとしての雰囲気が悪化の中、一〇〇mの齋藤が準決勝で足に不安を抱えたものの決勝で何とか五位に入りインターハイ出場を決めると、走高跳の阿部も苦しみなながらも一m九四を三回目で成功し、次の一m九七を越え、三位入賞を果たしました。ただ残念なのは、四×四〇〇mリレーで決勝に残ったものの七位という大変悔しい結果に終わったこ

とでした。その悔しさをバネに後輩達が、来年の全国大会入賞を目指し頑張ってくるものと期待しています。

沖縄県で開催されたインターハイでは、交通の関係もあり八泊九日という長期滞在でコンディショニングの維持にも苦労しました。また、南国特有のスコールのような豪雨に見舞われたり、刺すような太陽の日差しを浴びながらも、齋藤・阿部の両名は健闘しましたが、全国の壁は厚く入賞は出来ませんでした。

沖縄インターハイ成績
齋藤 啓 一〇〇m 予選四組五着 一秒二〇(向風一・三m)
阿部 晃大 走高跳
予選 二m〇一(自己新記録)

決勝記録なし(決勝進出者一四名)
今年のような素晴らしい経験が出来たことは、二人にとつてばかりでなく、陸上競技部にとつても大変有意義なものとなりました。先輩達の背中を見てきた一・二年生が確実に成長し、県新人大会では私の予想を上回り、男子総合優勝を果たし、東北新人大会でも男子四×一〇〇mリレーが五位、女子四〇〇mハードルで六位入賞を果たしました。

来年度の岩手・北上インターハイを目指し、今年の冬季練習では、一人ひとりが目標を明確にし、練習に励んでいるところです。

全国大会に出場して

弓道部顧問 千葉 聡

同好会として発足した二〇〇三から数えて八年目になる。昨年度の東日本高校弓道大会三人制の部で男子団体が準優勝を果たしたのを皮切りに、今年度の東北高校選手権大会では、女子団体が優勝、女子個人で齋藤(三年)が五位、男子個人では深谷(三年)が六位入賞を果たした。満を持して迎えた沖縄インターハイでは、優勝した飯能高校(埼玉)に惜敗したものの、ベスト三十二入りを果たし、選手一人一人の思い出に残るすばらしい経験となった。

これらの大会を通して得たものは、「絆」である。決して一人では為しえない大きな目標も、心をついに努力することで、少しずつ実現に近づくことができるということを再確認できたと信じている。試合で放つことができた輝かしい光も、日頃のたゆまぬ練習の積み重ねがあったこそである。部員一人一人の熱い思いが、時間を超えて強い絆で結ばれたのである。卒業生が流した悔し涙に心から感謝したい。「試合で勝てた」ことよりも「目標に向けて努力をし続けた」ことが何よりも大きな財産である。何(十)年にも渡る生徒達の努力の軌跡。その伝統を部員達と共に更に大きく育てていきたいと感じている。



沖縄の天気は目まぐるしくかつた。突然のスコールに襲われたときも選手達は冷静に行動し、目標を見失わなかった。そして最終日、時間を見つけて全員で海へ出かけた。抜けるような青空とグラスに注いでしまいたくなるような海。なんて運がよいのだろう。「こいつらは何か持っている。」そう思いたくなるようなすばらしい一週間であった。日頃よりご支援をいただいている関係者各位、そして保護者の皆様に心より御礼申し上げます。

NHK杯全国高校放送

放送委員会顧問

伊藤 規生(1期)

昨年に続き、今回も全国大会に進出することができました。

今年取材したテーマで構成する「ラジオドキュメント部門」にエントリーし、県大会4位通過で全国大会参加となりました。各都道府県から4本ずつ、計二〇〇本近いエントリー作品から上位二〇本が準決勝に進出（表彰の対象となる）となります。

過去に何回か準決勝に進出した経験から、今回の作品も「審査員が気に入ってさえくれれば十分上位進出あり」と密かに期待していましたし、実際審査員の講評を見て、好感を持ってくれたようなので、「これはいつたか？」となったのですが、

今年は部門自体のレベルが高く、あと数点というところで準決勝進出を逃してしまいました。自分自身もショックでしたが、生徒たちにとっても衝撃が大きかったようで、しばらく落ち込んで言葉がかけられない状態でした。よほど悔しかったので、しょう、帰る前から「来年の作品をどうするか」と話し合っていました。

年度後半からは、テレビ作品にも手を付けるようになり、制作の幅が広がってきています。来年に向けてノウハウを蓄積させ、次回は「全国に行く」でなく「全国で上位に行く」を目標に制作に励みたいと思います。

平成21年度 部活動報告

●運動部

陸上競技部

福島県高等学校体育大会

男子 100m 第3位 齋藤 啓

走高跳 第3位 阿部晃大

4x100mR 第2位

地引・野地・寺内・齋藤 啓

200m 第7位 齋藤 啓

1年4x300m 第8位 加藤拓磨

1年4x100m 第7位

赤枝・服部・安達・佐藤

男子 インターハイ東北大会

100m 齋藤 啓

4x100mR 準決勝敗退

走高跳 第12位 阿部晃大

福島県総合体育大会

男子 4x100mR 第4位

300mSC 第4位 安齋嘉章

少男A100m 第3位 齋藤 啓

少男共走高跳 第3位 阿部晃大

女子 少女B100m 第8位 高橋かな美

東北総体

男子 4x100mR 第7位

齋藤 啓 第1走 福島選抜B

福島県高等学校新人体育大会

県北大大会

男子 総合第1位

県高校駅伝大会

男子 第11位

あづま荒川クロスカントリー

女子 3.8km 第5位 高橋彩音

野球部

春季東北地区高等学校野球県

北地区大会

1回戦 東1 2学福

春季東北支部高校野球選手権

大会

1回戦 東1 9聖光

全国高等学校野球選手権福島

大会

1回戦 東11 0浪江

2回戦 東10 8修明

3回戦 東1 6聖光

秋季東北地区高校野球福島県

大会東北予選

1回戦 東3 6福工

敗者復活戦 東4 5学福

秋季東北支部高校野球選手権

大会

1回戦 東3 2学福

2回戦 東6 7福南

テニス部

男子 福島県高等学校体育大会県北

大会

学校対抗 優勝

個人戦シングルス

優勝 梅宮孝介

準優勝 菅野拓也

優勝 菅野拓也

第7位 穴戸 慧

第9位 二瓶峻也

第11位 鈴木悠人

個人戦ダブルス

優勝 梅宮孝介・菅野拓也

準優勝 穴戸 慧・佐藤智裕

第9位 鈴木悠人・富塚 慶

福島県高等学校体育大会

個人戦シングルス

第3位

ベスト16 梅宮孝介・菅野拓也

個人戦ダブルス

ベスト8 梅宮孝介・菅野拓也

福島県総合体育大会県北大大会

部シングルス

優勝 田口太平

準優勝 鈴木悠人・寺内優太

第3位 鈴木悠人・寺内優太

清野剛史・佐藤勇希

第5位 三川将史・佐藤大樹

部シングルス

第5位 三川将史・佐藤大樹

準優勝 荒川皓哉

部ダブルス

優勝 荒川皓哉・桑島貴嗣

第3位 野地大介・野地絃太

福島県総合体育大会

部ダブルス

ベスト8

桑島貴嗣・荒川皓哉

福島県高等学校新人体育大会

大会

学校対抗 優勝

個人戦シングルス

準優勝 鈴木悠人

第3位 田口太平・角田勇貴

第5位 桑島貴嗣

第9位 三川将史

福島県高等学校新人体育大会

部シングルス

ベスト8

菅野拓也

18歳以下

優勝 梅宮孝介・菅野拓也

東北ジュニアテニス選手権

18歳以下シングルス

菅野拓也

ダブルス

ベスト8

梅宮孝介・菅野拓也

県北ジュニアシングルス

テニス選手権大会

第3位 田口太平・鈴木悠人

第5位 寺内優太

第6位 角田勇貴

東北秋季ジュニアテニス選手権大会

ダブルス

優勝 佐藤大樹・寺内優太

準優勝 鈴木悠人・田口太平

第3位 桑島貴嗣・荒川皓哉

角田勇貴・三川将史

18歳以下シングルス

優勝 鈴木悠人

準優勝 田口太平

第3位 佐藤大樹・桑島貴嗣

第5位 角田勇貴

第6位 三川将史

第8位 寺内優太

16歳以下シングルス

第3位 宮川俊希

春季選抜ジュニアシングルス

テニス選手権大会

ベスト16 佐藤大樹

女子

福島県高等学校体育大会県北

大会

学校対抗 優勝

個人戦シングルス

第2位 諸橋希映

第3位 渡邊奈々美

個人戦ダブルス

第2位 諸橋希映・三浦依莉

第5位 渡邊奈々美・伊藤和佳奈

福島県高等学校体育大会

部シングルス

第3位

諸橋希映・渡邊奈々美

個人戦ダブルス

ベスト8

渡邊奈々美・伊藤和佳奈

諸橋希映・三浦依莉

渡邊奈々美・伊藤和佳奈

福島県総合体育大会県北大大会

部シングルス

優勝 渡邊奈々美・三浦依莉

準優勝 三浦依莉

第8位 高橋里沙

県大会出場者

部ダブルス

優勝 渡邊奈々美・三浦依莉

準優勝 齋藤松実

第3位 高橋里沙・渡辺結香

部シングルス

優勝 齋藤松実

準優勝 齋藤松実

部ダブルス

優勝 齋藤松実・狩野佳奈

第3位 菅野 栞・笠原聖子

福島県総合体育大会

部シングルス

ベスト8

渡邊奈々美

部ダブルス

優勝 渡邊奈々美・三浦依莉

第3位 齋藤松実・狩野佳奈

福島県高等学校新人体育大会

大会

学校対抗 準優勝

個人戦シングルス

準優勝 三浦依莉

第3位 渡邊奈々美

福島県高等学校新人体育大会

山岳部 52kg級 第3位 山岸夏実
 福島県高等学校体育大会東北大会
 (5・7・5・9)東吾妻山系
 福島県高等学校体育大会
 (6・3・6・6)会津駒ヶ岳山系
 福島県高等学校新人体育大会
 (10・110・3)那須山系

ダンス部 福島東高等学校第3回ダンス発表会

文化部
 合唱部
 第7回定期演奏会
 東北支部高校音楽祭 出演
 福島県高校音楽学習会 出演
 福島県合唱コンクール 銀賞/県代表
 全日本合唱コンクール東北支部大会 銀賞/本校ベスト更新
 福島県声楽アンサンブルコンテスト
 A銅賞 B奨励賞 C銅賞
 こむぎの心コンソーサート 出演
 第10回ジョイントコンソーサート(福島東、福島北、郡山高、喜多方高)

吹奏楽部
 福島県吹奏楽コンクール東北大会
 高校一部 金賞
 高校二部 金賞
 福島県吹奏楽コンクール
 高校一部 金賞
 福島県アンサンブルコンテスト
 吹奏器三重奏 金賞
 クラリネット七重奏 金賞
 金管八重奏/銀賞 金賞
 金管八重奏/金賞 金賞
 クラリネット七重奏/金賞 金賞
 第26回定期演奏会 開催
 東北地区音楽祭 参加
 県音楽祭 参加
 きらめきレクチャーコンサート 参加

写真部 参加
 福島県高等学校文化連盟写真専門部東北支部写真展
 優秀賞 佐久間海斗(2年)
 佳作 菅野美咲(2年)
 二宮亜紀(2年)

書道部
 書道部8名が作品を出展
 東北地区高校演劇連盟
 春の発表会
 『ひまわり』上演 照明係担当

運動部
 陸上競技部
 福島県高等学校体育大会
 男子 総合1位 6年ぶり7回目
 個人
 100m 齋藤 啓 第1位
 200m 安達 奨 第8位
 400m 地引凛一郎 第6位
 800m 佐藤伸哉 第7位
 1000m 安齋嘉章 第4位
 1500m 阿部晃大 第1位
 3000m 阿部晃大 第1位
 5000m 児山満寿胤 第2位
 10000m 齋藤啓 第4位
 15000m 齋藤啓 第4位
 30000m 齋藤啓 第4位
 50000m 齋藤啓 第4位
 100000m 齋藤啓 第4位
 3000m SC 安達 奨 第1位
 走高跳 阿部晃大 第1位
 三段跳 児山満寿胤 第2位
 引・佐藤伸 第1位
 4x100mR 安達・齋藤啓・地引・佐藤伸 第1位
 4x400mR 寺内・齋藤啓・佐藤伸・地引 第2位
 1年4x100mR 大竹・松本・菅野・畠 第1位
 女子 個人

平成22年度部活動報告

美術部 参加
 東北地区高校演劇連盟秋のコンクール
 『クラゲクワイシス』上演 接待係担当
 平成20年度福島県美術総合展
 入選 菅野祐太(2年)
 平成20年度福島県高校生美術展
 推薦入選 内村 覚(1年)、菅野祐太(2年)、塚原 茜(3年)、枝浪美咲(3年)
 平成20年度福島県美術協会展
 高校生第一部 清水 洋(2年)
 入選 枝浪美咲(3年)
 塚原 茜(3年)

科学部
 平成21年度生徒理科研究発表会
 東北地区大会
 摺上川の河川調査 発表

野球場部
 春季東北地区高等学校野球福島県大会東北支部大会
 2回戦 東2 3福島商業
 春季東北地区高等学校野球選手権大会
 2回戦 東6 2二本松工業
 準々決勝 東8 4学法福島
 準決勝 東7 3福島明成
 決勝 東2 6福島商
 準優勝
 全国高等学校野球選手権福島大会

バスケットボール部
 春季東北地区高等学校野球福島県大会東北支部大会
 2回戦 東2 3福島商業
 春季東北地区高等学校野球選手権大会
 2回戦 東6 2二本松工業
 準々決勝 東8 4学法福島
 準決勝 東7 3福島明成
 決勝 東2 6福島商
 準優勝
 全国高等学校野球選手権福島大会

テニス部
 春季東北地区高等学校野球福島県大会東北支部大会
 2回戦 東2 3福島商業
 春季東北地区高等学校野球選手権大会
 2回戦 東6 2二本松工業
 準々決勝 東8 4学法福島
 準決勝 東7 3福島明成
 決勝 東2 6福島商
 準優勝
 全国高等学校野球選手権福島大会

バドミントン部
 春季東北地区高等学校野球福島県大会東北支部大会
 2回戦 東2 3福島商業
 春季東北地区高等学校野球選手権大会
 2回戦 東6 2二本松工業
 準々決勝 東8 4学法福島
 準決勝 東7 3福島明成
 決勝 東2 6福島商
 準優勝
 全国高等学校野球選手権福島大会

第3位 矢吹捺美・引地初奈
東北ジュニアテニス選手権
18歳以下女子シングルス
2 回戦敗退 三浦依莉
1 回戦敗退 渡邊奈々美
18歳以下女子ダブルス
準優勝 三浦依莉・渡邊奈々美
16歳以下男子シングルス
1 回戦敗退 梅宮和真
16歳以下男子ダブルス
1 回戦敗退
梅宮和真・原田駿
全日本ジュニアテニス選手権
18歳以下女子ダブルス
1 回戦敗退
三浦依莉・渡邊奈々美
東北テニス選手権大会
女子団体 第3位
新人体育大会東北地区予選
学校対抗 男子 優勝
女子 優勝
個人戦シングルス
男子 優勝
準優勝 原田 駿
第3位 梅宮和真
第4位 桑島貴嗣
第6位 荒川皓哉
第7位 野地大介
第9位 野地絃太、鈴木彬人
女子
優勝 三浦依莉
準優勝 狩野佳奈
第5位 矢吹捺美
第6位 菅野 菜
第7位 齋藤松実
新人体育大会東北地区
学校対抗
男子 第3位
個人戦シングルス
男子
第5位 梅宮和真
第7位 原田 駿
ベスト16 桑島貴嗣
女子
第3位 三浦依莉
第6位 矢吹捺美
秋季選抜ジュニアシングルス
選手権
男子 第6位 原田 駿
女子 第3位 三浦依莉

(東北大会出場)
東北選抜高等学校テニス選手権大会
男子 準優勝
全国大会出場権を獲得
東北秋季ジュニアテニス選手権大会
18歳以下男子シングルス
優勝 桑島貴嗣
第3位 野地大介
ベスト8 野地絃太 中村友彦
男子ダブルス(新人戦を兼ねる)
優勝 原田駿・梅宮和真
第3位 野地大介・野地絃太
ベスト8 桑島貴嗣・鈴木彬人
18歳以下女子シングルス
優勝 矢吹捺美
第3位 狩野佳奈
ベスト8 齋藤松実、長沼侑里
女子ダブルス(新人戦を兼ねる)
優勝 三浦依莉・狩野佳奈
準優勝 齋藤松実・菅野菜
福島県ジュニアダブルステニス大会
ベスト8 原田駿・梅宮和真
ベスト8 三浦依莉・狩野佳奈
福島県春季選抜ジュニアシングルス選手権大会
18歳以下男子
ベスト8 梅宮和真
18歳以下女子
準優勝 三浦依莉
福島県秋季選抜ジュニアシングルス選手権大会
女子シングルス
第3位 三浦依莉
東北秋季ジュニアテニス選手権大会
女子シングルス
三浦依莉 2 回戦敗退
ハンドボール部
2 回戦敗退
福島県高等学校体育大会東北地区大会
福島東 30 39 福島西
福島東 26 18 福島商
準決勝
福島東 25 19 福島工
決勝
福島東 32 15 福島
優勝 県大会出場

福島県高等学校体育大会(シードの為、2回戦から)
2 回戦
福島東 29 11 橘
3 回戦
福島東 26 16 福島西
準決勝
福島東 38 21 福島
決勝
福島東 25 28 安積
準優勝 東北大会出場
福島県総合体育大会東北地区大会
予選
ナメント
1 回戦
福島東 16 19 本宮
1 回戦敗退
本戦
ナメント
1 回戦
福島東 27 25 聖光学院
準々決勝
福島東 21 20 本宮
準決勝
福島東 19 29 福島工
3 位決定戦
福島東 25 14 福島西
3 位 県大会出場
福島県総合体育大会
1 回戦
福島東 22 23 安積
1 回戦敗退
東北ハンドボール大会
準々決勝敗退、ベスト8
国民体育大会千葉大会(福島県選抜チーム)
曳地海斗 出場
福島市民体育祭
1 回戦
福島東 29 14 川俣
2 回戦
福島東 17 22 福島
3 位決定戦
福島東 17 25 福島西
第4位
福島県高等学校新人大会東北地区大会
Bブロック予選
ナメント
福島東 31 21 川俣
福島東 40 6 福島商
Bブロック1位通過

決勝
福島東 22 26 聖光学院
3 位決定戦
福島東 34 22 福島
第3位 県大会出場
福島県高等学校新人大会
福島東 24 13 いわき総合
準々決勝
福島東 28 10 聖光学院
準決勝
福島東 22 46 学法石川
3 位決定戦
代表決定戦の為にシード順決定戦
福島東 24 30 福島工
1 回戦
福島東 18 43 福島SG
1 回戦敗退
東北高等学校ハンドボール選抜大会 県代表決定戦
福島東 13 20 帝京安積
福島東 24 32 学法石川
福島東 26 32 福島工
第4位
バドミントン部
男子
福島県高等学校体育大会東北地区大会
団体 第3位
個人 男子ダブルス
武田朋之・柏木洋樹組 第2位
大森翼・加藤和浩組 第9位
佐藤裕太・神野智也組 第9位
男子シングルス
武田朋之 第3位
柏木洋樹 第13位
福島県高等学校体育大会
団体 ベスト8
個人 男子ダブルス
武田・柏木組 ベスト8
佐藤・神野組 ベスト16
大森・加藤組 初戦敗退
男子シングルス
武田朋之 ベスト16
柏木洋樹 初戦敗退
福島県総合体育大会東北地区大会
個人 男子ダブルス
佐藤・神野組 ベスト8

齋藤・野木組 第9位
福島県高等学校新人大会東北地区大会
団体 3位
個人 男子シングルス
神野智也 ベスト8
加藤 駿 第9位
野木一弥 第13位
男子ダブルス
神野智也・佐藤拓也組
ベスト8
斎藤涼・野木一弥組 第9位
福島県高等学校新人大会
団体 ベスト8
個人 男子ダブルス
佐藤・神野組 2 回戦突破
齋藤・野木組 1 回戦突破
男子シングルス
野木一弥 2 回戦敗退
神野智也・加藤駿 2 回戦敗退
フレッシュグラプリ
団体 優勝
福島県高等学校体育大会東北地区大会
個人 女子ダブルス
二階堂恵里・佐藤聖夏組 第15位
女子シングルス
佐藤聖夏 第9位
福島県高等学校体育大会
個人 女子ダブルス
二階堂・佐藤組 初戦敗退
女子シングルス
佐藤聖夏 初戦敗退
福島県総合体育大会東北地区大会
個人 女子ダブルス
佐藤・鈴木組 第3位
福島県高等学校新人大会東北地区大会
団体 第3位
個人 女子ダブルス
佐藤聖夏・鈴木蓮花組 第3位
女子シングルス
佐藤聖夏 第17位
福島県高等学校新人大会
団体 1 回戦敗退
個人 女子ダブルス
佐藤・鈴木組 初戦敗退
女子シングルス

卓球部

福島県高等学校新人大会東北地区大会
予選リーグ
福島東 0 2 保原
福島東 2 0 1 福島商
福島東 2 0 梁川
2位で決勝リーグ進出
決勝リーグ
福島東 1 2 福島南
福島東 0 2 安達
順位決定戦
福島東 0 2 福島明成
最終結果7位

福島県高等学校体育大会東北地区大会
学校対抗 4位
個人 男子ダブルス
桜井・角田組 8位
菅野・萩原組 13位
男子シングルス
角田明彦 18位
桜井貴史 35位
福島県高等学校体育大会
学校対抗 2回戦敗退
個人 男子ダブルス
桜井・角田組 2回戦敗退
菅野・萩原組 2回戦敗退
男子シングルス
角田・桜井 2回戦敗退
福島県総合体育大会東北地区大会
学校対抗 6位
個人 男子シングルス
桜井貴史 12位
角田明彦 23位
丸島 涼 28位
福島県総合体育大会
団体
2回戦 福島東 0 3 磐城
個人 桜井貴史・角田明彦

全日本選手権大会福島県大会
東北地区大会(個人戦のみ)
男子シングルス
桜井貴史 10位
角田明彦 13位
全日本選手権大会福島県大会
(個人戦のみ)

男子シングルス

桜井貴史 2回戦敗退
角田明彦 1回戦敗退
福島県高等学校新人大会東北地区大会
学校対抗 5位
個人 男子ダブルス
桜井・角田組 3位
男子シングルス
桜井貴史 12位
角田明彦 18位
丸島 涼 27位
福島県高等学校新人大会
学校対抗 ベスト16
個人 男子ダブルス
桜井・角田組 ベスト16
男子シングルス
桜井貴史・角田明彦 3回戦敗退
丸島 涼 2回戦敗退
福島市民体育祭
福島男子の部 3位
福島東A 桜井角田丸島渡邊
女子
福島県高等学校体育大会東北地区大会
個人 女子シングルス
野地裕美 25位
福島県総合体育大会東北地区大会
個人 女子シングルス
野地裕美 12位
菊地由紀 26位
福島県総合体育大会
個人
野地 3回戦敗退
菊地 1回戦敗退
全日本選手権福島県大会東北地区大会(個人戦のみ)
女子シングルス
野地裕美 16位
菊地由紀 24位
全日本選手権大会福島県大会
(個人戦のみ)
女子シングルス
野地裕美 ベスト32
菊地由紀 2回戦敗退
福島県高等学校新人大会東北地区大会
個人 女子ダブルス

女子シングルス

野地・菊地組 5位
女子シングルス 野地 7位
福島県高等学校新人大会
個人 女子ダブルス
野地・菊地組 1回戦敗退
女子シングルス
野地裕美 2回戦敗退
道部
福島県高等学校体育大会東北地区大会
男子 団体 7位
佐藤 匠
個人 3位
女子 団体 予選リーグ敗退
個人 19位
清野紗緒里
福島県高等学校体育大会
男子 団体 2回戦敗退
個人 佐藤匠 ベスト32
女子 個人
清野紗緒里 1回戦敗退
福島県総合体育大会東北地区大会
男子 団体 8位
中村 隼
個人 10位
女子 個人
梅津未希子
福島県総合体育大会
中村 隼 1回戦敗退
梅津未希子 1回戦敗退
福島県高等学校新人大会東北地区大会
男子 団体 3位
個人 予選敗退
福島県高等学校新人大会
男子 団体 1回戦敗退
福島県高等学校選抜優勝大会東北地区大会
男子 団体 2位
福島県高等学校選抜優勝大会
男子 団体 1回戦引き分け
水部
福島県高等学校体育大会東北地区大会
男子 個人 県大会出場
50m自由形 寺島康平・武藤心平
100m自由形 眞島 慧・武藤心平
200m自由形 鈴木伸吾
100mバタフライ 田中信顕
400mリレ、400m個人メドレ

男子団体

リレ、800mリレ
女子 団体 総合3位
個人 県大会出場
50m自由形 斎藤千夏・笠咲樹
100m自由形 市川沙幸
200m自由形 市川沙幸
100m背泳ぎ 斎藤千夏
100m平泳ぎ 笠咲樹
100mバタフライ 門馬みゆき
200mバタフライ 門馬みゆき・菅野由莉
400mリレ、400m個人メドレ
三浦真琴
福島県高等学校体育大会
女子 個人
200m自由形 市川沙幸
200mバタフライ 門馬みゆき・菅野由莉
200m個人メドレ 三浦真琴
400m個人メドレ 三浦真琴
東北高等学校選抜選手権大会
女子 個人
200m自由形 市川沙幸
200mバタフライ 門馬みゆき
200m個人メドレ 三浦真琴
福島県高等学校新人大会
男子 団体 2位
個人 66kg級1位 阿部裕樹
73kg級2位 野地友哉
100kg級2位 庄司龍弥
100kg級超級2位 佐々木匠
福島県高等学校新人大会
男子 団体 ベスト16
個人 66kg級 阿部裕樹ベスト8
100kg級 庄司龍弥2回戦敗退
73kg級 野地友哉
100kg級 佐々木匠

女子団体

福島県高等学校新人大会東北地区大会
男子 団体 2位
個人 66kg級1位 阿部裕樹
73kg級2位 野地友哉
100kg級2位 庄司龍弥
100kg級超級2位 佐々木匠
福島県高等学校新人大会
男子 団体 ベスト16
個人 66kg級 阿部裕樹ベスト8
100kg級 庄司龍弥2回戦敗退
73kg級 野地友哉
100kg級 佐々木匠

文化部

合唱部
NHK全国学校音楽コンクール福島県大会
福島県合唱コンクール
優秀賞
高校B部門(32名以上)金賞
全日本合唱コンクール東北支部大会

ダンス部
福島県高等学校第4回ダンス発表会

山岳部
福島県高等学校体育大会
安達太良山系で開催
4名編成の1バ ティ参加
福島県高等学校新人大会
猫魔ヶ岳・雄国山で開催
3名1バ ティが参加

吹奏楽部 吹奏楽コンク ル 県北支部大会 高校一部 金賞 福島県吹奏楽コンク ル 高校一部 金賞 福島県アンサンブルコンテス ト 県北支部大会 金賞 打楽器六重奏 金賞 クラリネット六重奏 銀賞 金管八重奏 銀賞 福島県アンサンブルコンテス ト 打楽器六重奏 銀賞 第27回定期演奏会 5月開催 県北地区音楽祭 参加 県音楽祭 参加 福島県高等学校創立30周年記 念式典 出演	吹奏楽部 吹奏楽コンク ル 県北支部大会 高校一部 金賞 福島県吹奏楽コンク ル 高校一部 金賞 福島県アンサンブルコンテス ト 県北支部大会 金賞 打楽器六重奏 金賞 クラリネット六重奏 銀賞 金管八重奏 銀賞 福島県アンサンブルコンテス ト 打楽器六重奏 銀賞 第27回定期演奏会 5月開催 県北地区音楽祭 参加 県音楽祭 参加 福島県高等学校創立30周年記 念式典 出演
--	--

美術部 福島県総合美術展覧会 (県展) 入選 清水 洋 菅野祐太 パソコン甲子園2010 いちまいの絵CG部門 佳作 清水 洋 世紀のダ・ヴィンチを探せ! 高校生ア トコンペティション 入選 菅野祐太	科学部 平成22年度生徒理科研究発表 会 県北地区大会 摺上川の河川調査 発表 放送委員会 NHK杯全国高校放送コンテ スト 県北地区予選 ラジオドキュメント部門 最優秀 アナウンス部門 赤枝祐樹 優秀一席 NHK杯全国高校放送コンテ スト 福島県大会 ラジオドキュメント部門 優秀二席 NHK杯全国高校放送コンテ スト 全国大会 ラジオドキュメント部門 出場 全国高等学校総合文化祭放送 部門 福島県大会 アナウンス部門 赤枝祐樹 佳作四席 ラジオキャンペ ン部門 優秀四席 ラジオキャンペ ン部門 優秀七席 ビデオメッセ シ部門 優良一席 東北高校放送コンテスト (ふ くしま総文ブレ大会)
---	--

平成22年度(29期生) 部活動を終えて

生徒会

私が生徒会役員として奮闘した日々は、本当にあっという間に感じられました。しかし、この三年間は私にとってかけがえない思い出です。昨年行われた公開文化祭は特に印象に残っています。自分の人生の中であれほど一生懸命になったことは無いほど準備に力を入れました。当時の学芸委員、そして先生方には大変お世話になりました。みなさんの御協力のもと、無事成功できてなによりでした。最後に、私を支えてくれた生徒会役員のメンバーには、本当に出会うことができて良かったと心から感謝しています。これからも生徒会執行部が東高校を盛り上げてくれることを願っています。

(桑久保陽介)

野球部

まずは、今年の夏の大会での全校応援、皆さん本当にありがとうございました。僕達の目標であった「県制覇」は果たせなかったのは悔しかったけど、声援には大きな力をもらうことができました。部活を振り返ってみると、毎

日毎日大好きな野球をできることが本当に幸せなことだったんだと思います。もちろん、支えて下さった、監督、コーチ、先生方そして保護者の力がなければここまで充実した部活動生活を送れませんでした。恵まれた環境で三年間部活を続けられた僕たちは本当に幸せ者です。これからも野球部のモットーであった「愛、感謝」という言葉を胸に部活での経験を生かしていきたいです。そして、後輩には悔しさをバネに甲子園出場を果たせるように、努力していつてほしいです。

(渡辺 大太)

サッカー部

第八九回全国高校サッカー選手権大会福島県大会、私たち三年生はこの大会をもってサッカー部を引退することになりました。高校三年間の部活動を終えた時、今までサッカーを続けてこられたのは、いろんな方々のサポートのおかげなのだと思えて気がきました。また、最後の試合に負けた時、今までにない程の悔しさを経験しました。この悔しさは生涯忘れることはない、また忘れることはできないものになるでしょう。今後はこの悔しさをバネにし様々なことに挑戦していこうと思えます。

最後に、今まで一緒にサッカー

をしてきた仲間たち、そして新チームとしてスタートした一、二年生に、感謝と激励の意を込めて閉じさせていただきます。「フレフレ東!!」

(岩崎 翔)

卓球部

大学合格へ向けて勉強に励む毎日、部屋に無造作に置かれたラケットケースが目に入り、思い出に浸ってしまうこともしばしば。

私は一年の時の新人戦など、不調だった自分は先輩方から励まされてばかりだったと思う。先輩方には迷惑をかけてばかりで、今思うと自分は未熟だったなと思う。それでもひたむきに練習する先輩方の姿を見て練習だけはさばらず参加したものだ。また先輩方と挑む最後の大会である高体連は強く印象に残っている。

(菅野 俊宏)

女子バスケットボール部

課外するときなどふとボールの音やバッシュの床にこすれる音

が聞こえると懐かしいような少し寂しい気持ちになります。毎日のように怒られながらも練習に練習を積み重ねてきましたが大事な試合でも結果を出すことができず、自分たちの未熟さを実感し、また、プレー面以外でもチームとして大きな壁にぶつかることもあり、つらく苦しい思いをたくさん経験してきました。

それにもかかわらず今こうして懐かしく思えるのも先生方や仲間のおかげだと思います。自分との戦いでもある受験を目の当たりにして仲間にもまれてた時には気付かなかつた仲間の存在に気付くことができました。今、私たち三年生と後輩の目指しているものは違いますが女子バスケ部として全員で後悔のないよう頑張っていけたらなと思います。

(宗形 千穂)

剣道部

私達剣道部は、入部してから常に先輩方の背中を見てきた。東北大会出場を決めた先輩方、強豪校相手に堂々と戦った先輩方の姿を…。これらの伝統を受け継ぎ、私達の代となった。しかし始まりは厳しいもので、うまくいかない日々が続いた。そんな状況でも私達は決して目標を捨てず、顧問の佐久間先生のご指導のもと日々稽古に励み、

多くの遠征を重ね、男女共少しづつ確実に力をつけていくことができた。

最後のインターハイ県大会予選では、男子団体、男女個人で強豪校相手に堂々と試合をすることができた。特に団体では、これまで私達が大差で敗れていた相手に代表戦まで持ち込み、自分達の成長を再確認することができた。

(半澤 抄悟)

弓道部

弓道部に所属して約二年と半年、さまざまな経験を積んだ。入部当初から無我夢中で練習を続け、着々と力をつけているのが自分でも分かった。そんな中で部長就任、最初は部員を引っぱっていきけるか不安であったが、みんなが自主的に動いてくれて大した苦勞をせずに練習に集中できたと思う。部活の成績は年々良くなって

いき、インターハイ県予選の時はメンバー全員が自信を持って挑むことができた。結果は優勝念願であったインターハイ出場の権利を手に入れた。それから毎日練習に励み本番を迎えたが、やはり全国の壁は高かった。今振り返ってみると未練は多々あるが、それ以上に仲間達と過ごした時間や数え切れない経験を通して、充実した高校生活を送っていたと思う。弓道部に所属して過ごしたことを誇りにし、忘れないで生きていきたい。

(深谷 晃樹)

男子バレーボール部

引退し卒業を間近にひかえた今、仲間・先生・先輩・ライバル・種目は違えど一緒に上を目指し励まし合った友達・etc、様々な人の支えがあったことを改めて感じます。

私達の代の目標は一つ上の先輩方でした。ポジションごとに県でも名の通った素晴らしい方を先輩に持ち必死に追いつこう、超えようと努力しました。この環境を与えてくれた二十八期の先輩方、遠藤先生にはとても感謝しています。またその目標の中で私達のやるべき事を真剣に考え、示し、厳しく指導してくださった恵治先生、中里先生は私達にとつてなくてはならない存在です。そして最後の顧問であった章子先生と松本先生。勝

負に絶対に勝つという意志の強さは誰にも負けない方々です。御陰でとてもいい精神状態で最後の試合に臨むことができたと思っています。

偉大な先輩方や先生方がいたから、となりのコートで共に声を出していたバスケ部をはじめ、一緒に部活動を頑張ってきた東高の友達がいながら、負けたくない他校のライバルがいたから、応援してくれる保護者がいたから、そしてともに闘った仲間がいたから私達はここまで頑張ってきたのだと思います。関わってくださった皆さん、本当にありがとうございました。

(塩谷 大地)

女子バレーボール部

私は三年間、東高女子バレー部の一員として頑張ってきたこと、そして大切な仲間に出会えたことを幸せに思っています。バレー部はいつも、私の中心でした。文武両道を目標に入部したのですが、いつからか優先順位は部活のほうが上になっていて、多少勉強がおろそかになっていた気がします。でも、そんな毎日後悔をしたことはなく、むしろみんなと共につけぬけてきた日々を私は胸を張って「青春」だと言うことができます。

大会では思うような結果を残せなかった私たちですが、それ以上に得られたものも多くあり、

バレーを通して人として成長できたのではないかと思っています。また、バレーボールを通して得た友情は一生ものだと思います。これからずっと良きライバルとして競い合い、助け合っ

バレー部に入って、本当によかったです。ありがとうございました。

(松本 紗果)

男子バドミントン部

バドミントンは元々は一八七三年にインドのプーナで行なわれていた遊びをイギリス人兵士が本国に伝えたのが始まりとされています。最初はシャランの柱に鳥の羽を刺した物を用いてそれをテニスラケットで打って遊んでいたという話が現在では最も有力だとされています。

さて、ぼく達バドミントン部は、経験者が少ないというハンディキャップを背負いながらも、何とかはい上がろうとがき苦しみ、その結果県大会ではベスト8進出を果すことが出来ました。

後輩達には、ぜひ全国に行つてほしいと思います。また、今まで支えてくれた先生方、先輩方、保護者のみな様、本当にありがとうございました。

「武田くんは何がもっているね」と言われ続けてきました。それは、「仲間」です。

(武田 朋之)

女子バドミントン部

三年生五人、一・二年生十八人の計二十三人で練習に励みました。限られたスペースで全員コートに入る事が出来ず、工夫して毎日練習しました。男バドのみなさんの温かい協力もあり、一緒に練習したりしてもらいました。それもあって、仲が良く東高クラブなど楽しい活動ができました。

コートがあまり使えない事から各自自練をしてより多くの力をつけました。中にはがんばりすぎてケガする人も多くいました。充実した毎日でしたが大会では良い結果を残す事が出来ませんでした。悔しかったけど青春でした。

伸郎先生、富良野先生、竹田先生お忙しい中ご指導ありがとうございます。

一・二年生のみんな後悔しないように日々がんばって下さい。
みんな大好きだよ♡
(三輪真衣子)

男子テニス部

男子テニスとして過ごした時間を振り返ると、とても充実していたと思います。顧問である梅宮先生の熱心な厳しい練習のおかげで肉体的・精神的に大きく成長出来ました。部長になって、未熟な部分もあり皆に迷惑を掛けてしまうこともありまし

たが、そんな時は皆が助けてくれて最後まで、やる事が出来ました。東高テニス部の一番の特徴は、団体戦の応援だと思っています。この応援は県でも一番と言っても良い位素晴らしいものです。最初に全員で円陣を組み「福島東二・二・一・ウイクトリー」で全員が一つとなり、選手を鼓舞して、何度も素晴らしい勝利をおさめてきました。

この東高テニス部の応援は素晴らしい伝統だと思うので、これからもこの応援で応援する人は全力で選手を応援し、選手はそれにこたえるようなプレーをして全国大会へ行ってみようと思います。

最後に一緒に部活をやった仲間、指導してくれた先生方、テニスを通じて知りあった人々に感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございます。
(三川 将史)

女子テニス部

私は福島東女子テニス部であったことを誇りに思います。練習ではみんなが真面目に取り組み、切磋琢磨し合うことはもちろんのこと練習を通して、お互いを理解し合うことができ、仲間との強い絆を築けることができました。そのように信じてくれる仲間がいてくれたからこそ、自分自身を信じることもでき、さらに強くなれたと思います。特に印象深いことは、団体戦での

エンジンです。選手、部員、先生、みんなと肩を組み合い、声を出し心を一つにしたことです。信じあえる仲間、勇気を与えてくれる仲間、共に泣いたり笑ったりあえる仲間、そんな素敵な仲間に出会えたことに感謝しています。私は、テニス部の皆とテニスを共に強くも優しくも成長できました。今、女子テニス部に、テニスに、「ありがとう」
show the spirits!
(渡辺奈々美)

水泳部

引退してから四ヶ月たち、帰り際駐車場から学校のプールを見ると懐かしくそして少し寂しく思います。部活動では何度も「今日は泳ぎたくない」と思っていたのに引退してからは無性に泳ぎたくなります。

部活動の三年間で一番辛かったのは冬の期間でした。ただただ筋トレをする毎日で精神的にも辛かったです、でもそんな練習でも文句も言わずについてきてくれた部員達には本当に感謝です。

泳ぎ続けた自分達の三年間はあつという間に過ぎてしまい多少の悔いは残りましたが、頼りになる新部長と最高の後輩達に引き継ぐことができ、誇りに思える水泳生活でした。
ぜひ少しでも東高水泳部の名を広げてさらに誇りに思える

ハンドボール部

高校生活を振り返ってみると、三年間は瞬間に過ぎていったと思います。しかし、この長くも短かった私の高校生活は実に色濃く毎日が充実していたと思います。

この高校生活の大部分を占めているのが部活です。この場でどれほど多くのことを学んだか検討もつきませんが、一つ確実に言えることは自分自身を心身に成長させてくれたということです。部活と勉強の両立は大変辛いもので嫌になることも多々ありました。でもそんな時、周りの人からの支えがあり、一つの壁を乗り越えていく力を与えてくれました。こうして一つの物事を乗り越えていく達成感というものを学び、味わうことができました。

こうして得た経験は、どんな苦難が待ち受けていようと、必ず目の前の歩むべき道しるべとなってくれるでしょう。
(齋藤 大暉)

ソフトボール部

部活動を引退しよう六ヶ月が経ちました。この六ヶ月、生活が受験モードへ変化していく中で、体が成長を遂げたことは言

うまでもありません。そんな自分を振り返った時、ソフトボールをやっていた頃の事が一コマ一コマ頭に浮かんできます。今思うと、本当に最後まで部活動をやり遂げることができてよかったと思います。インターハイ出場という目標は達成することができませんでしたが、一生忘れられない三年間だったと思います。特に三年生となり、新部員が二十一人も入り新体制となつてからの三ヶ月はとても濃く、充実したものでした。

部活動を終えることができたのも、先生方の熱いご指導、部員の助け、家族の支えのおかげであると本当に感謝しています。来年こそは東高ソフトボール部がインターハイに出場するのを願っています。ありがとうございます。
(佐藤 智哉)

合唱部

部活引退後、今までの生活のリズムが変わり、部活が私の高校生活を大きく占めていたことに改めて気付きました。特に最後の一年間は思い入れが強く、とても充実していました。部長を任せられ、不安や上手くいかないことも多く、部活に行くのが辛い時もありましたが、仲間や先生に支えられ、励まされて頑張ることが出来ました。たくさん思い出がありますが、合唱

コンクールの東北大会で、創部初の金賞を獲得することができ、新たな伝統を築けたと思うと、本当に嬉しいです。引退後、後輩たちの歌声が聞こえてくると、また皆で歌いたいと思うので、今の方がより合唱に魅力を感じているかもしれません。なので、後輩たちには今の時間を大切に、楽しく歌ってほしいと思います。

(佐藤さつき)

美術部

自分はちょうど一年生の秋にこの部活に入部しました。ただ美術の経験は今までに一度もなく、活動している時は道具の使い方がわからなくていい状態、わからないことだらけでした。

そのため部の活動は時間ギリギリまで使って作品を制作してました。時間をかけたおかげなのか作品も作るにつれて自分の伝えたいことなどちゃんと述べられるようになりました。CGの分野を二年の後半から始めてからも、上手になりたい一心で人一倍努力しました。

こうして努力していい方向にもってこれたのも、時には優しく時には本音で話してくれた、先輩方や片平先生、友達や後輩達がいたからだだと思います。三年間こんなにもいい仲間と活動できて幸せです。

(菅野 祐太)

写真部

写真部は男女合わせて八名で活動してきました。まず春に県北地区の高校の写真部が集まって、プロの写真家の方に指導をして頂く撮影会があり、秋には今までの成果を問う写真展が行われてきました。個人での活動が多い部活でしたがみんな仲良く互いに作品を評価しあいながら技術を磨いてきました。本当に仲の良い部活だったので、もうみんな活動することがないと思うと寂しいです。これからはみんなそれぞれの目標に向けて、この写真部で過ごした日々を胸に頑張っていきたいと思えます。最後に部長として至らない部分もありましたが活動する中で支えて下さった伊藤先生、樋口先生には本当に感謝しています。三年間、ありがとうございました。

(鈴木明香里)

科学部

科学部での活動は、様々な分野に触れられたと思います。

最も大きな活動であった「水質調査」では、「化学」の知識を使い、川に流れている水の物質の保有量を薬品で検査した結果から考察し、「生物」の知識を使い、川で捕まえた生き物の種類からも水の汚れ具合を調査しました。また、「物理」や

「地学」の知識を使い、川のの流れや、その環境も調査しました。

他の活動では、「人工火山」や「錬金術」という実験などで「化学」に触れ、「ロボット製作」などで「物理」に触れました。

これらの活動は貴重なものであり、幅広い分野に触れたことで、進路決定の幅も広がり、科学についての広い視野を持つ、重要な出発点であったと思います。

科学部のこれからの発展に期待します。

(佐川 芳明)

演劇部

演劇部として活動した二年間は私に多くのことを教えてくれました。演劇部員としての専門知識はもちろんです。それに加え仲間と一緒に一つの舞台を完成させる難しさと楽しさ、大舞台の前でも緊張しないための心構えやそして何より仲間と協調することの大切さを学んだような気がします。

素晴らしい賞を取ることはできませんでしたが部員の少ない中で全力を尽くしたと思います。

(武田奈津希)

吹奏楽部

それまで生活の中心が部活動であった私にとって、部活動を終えた後のことなど全く考えら

れなかった。考えてみても、漠然とした不安があるだけで、それ以上深くは想像できなかった。もっとも、目前のことで精一杯だったからなのだろうが。

とはいえ、いざ終わりが来ると意外にもあっさり終わってしまった。最後に今まで使ってきた楽器の手入れをしてケースを閉じた後、ちよっと後輩達に一言言つて普通に帰った。後日音楽室へ行き、後輩達が新たな組織を作っているのを見て、初めて自分が引退したことを強く実感した。

その後しばらくしてやっと勉強に身が入るようになったが、やはり何か物足りない。部活動を終えた後になって、私は日常が日常でなくなる事の重大さがよくわかった気がする。でも、部活動が日常だと思えるほどに打ち込めた事はとても幸せだったのだ、と思う。

(池沢 悠丞)

放送委員会

私が放送委員会に入ったのは二年の春からでしたが今振り返るとそれはとても短いように感じます。録音するための機械の使い方を覚えることから始まり、一時は部員不足に頭を悩ませましたが、新たに加入してくれた先輩と後輩、そして先生の尽力のおかげで、地区大会、県大会と進むことができ、ついに全国

大会に出場できました。全国のレベルは高く、賞を得ることはできませんでしたが他高生の様々な考えに触れ、作品を見聞きすることでより広い視野を得ることが出来ました。

(武田奈津希)

応援・ブラスバンド委員会

七月に引退してから早くも五カ月が経ちます。この三年間、本当に様々な事がありました。私たちが入部した頃の先輩の数は三年生が一人だけ。時間がない中でも先輩は一年生に丁寧に指導して下さいました。一年生の後半からは応援団の力を借りながら一年六人だけで頑張り、三年時には後輩も入って十人になりました。そんな中、今年応援団がなくなり、その状況でむかえた応援歌講習。野球部や他の部の協力もあり、無事に終えることができました。そして私たちの最後の夏、野球部が県ベスト8。嬉しい限りでした。

この部活で本当に多くのことを学びました。何より、先輩・後輩・先生・野球部などたくさんの方に支えられてきました。今まで関わった全ての方々への感謝の気持ちで一杯です。この場をお借りして、「ありがとうございました!!」

(笹山 操香)

転任者の言葉

七年ぶりに戻りました

諏佐 一夫

私事ですが、前回は十五期生の入学とともに担任として赴任して、十八期生の担任、その後三年間進路指導主事を務め、二十一期生の卒業とともに転出いたしました。合計九年間お世話になった計算です。

今回七年ぶりにまた本校に勤務できることになり、自分の幸運をかみしめております。久しぶりに戻ってみると、四五分七校時の授業はもちろん、放課後も課外や部活動で校内は活気にあふれており、創立三〇周年を迎えた今も、「良き伝統はしっかりと受け継がれている」という思いを強くしました。

平成22年度 転出者

職名	氏名	転出先
教頭	高橋朝晴	退職
教諭	佐藤恵治	退職
教諭	渡邊ひろみ	退職
教諭	齋藤靖	教育総務課
教諭	伊藤正人	安達高校
教諭	星弓彦	高総文祭推進室
教諭	二階堂剛	仙台第二高校
常勤講師	加藤明	退職
常勤講師	中里妃呂美	退職
常勤講師	和田聡子	川俣高校新採用
時間講師	菅野正夫	退職
時間講師	星和子	退職
主査	石井敏子	橘高校

平成22年度 転入者

職名	氏名	前勤務先	教科
教頭	諏佐一夫	修明高校	数学
教諭	佐藤信治	安達東高校	英語
教諭	星英一	安積黎明高校	音楽
教諭	齋藤章子	本宮高校	数学
教諭	朝倉昭博	郡山高校	国語
教諭	富良謝和信	相馬農高飯館	国語
教諭	伊勢将聡	気仙沼西高校	国語
常勤講師	齋藤直人		英語
常勤講師	山口尚之		体育
常勤講師	新妻耐善男		理科
時間講師	飯沼昭宣		理科
時間講師	原田多江子		地歴公民
主査	澤村玲子	県立図書館	

平成22年度 教育実習生 (同窓生のみ)

氏名	期生	氏名	期生
古山貴大	26期	石川あずさ	25期
移川美由紀	25期	久保田浩規	25期
山形俊介	25期	白木ゆう美	25期
菅野拓也	25期	岡崎麻衣子	25期
安齋和樹	25期	佐々木崇	25期
加藤裕樹	23期	斉藤崇史	24期
菅野数宙	24期	酒井寛人	25期
齋藤真木	25期	坪谷洋平	25期
阿部竜太	25期	長岐大	24期
乙葉祐介	25期	山崎潤世	25期
川口夢加	25期	亀岡侑未	26期
國分広樹	25期	引地祥平	26期
渡辺貴儀	25期	渡邊夏子	25期

さて、転入者一同は、四月からそれぞれエンジン全開で校務に就いております。前任者の後を引き継ぎ、福島東高校の「新しい伝統」を生徒とともに築いていくべく、精一杯頑張るつもりですので、どうぞよろしくお願いたします。

平成22年度在校生支援事業

1. 運動部支援
 - ・テニスコート用山砂 102,312円
 - ・黒土 170,100円
 - ・第2体育館床塗装 557,000円
 - ・ダンス部 20,000円
2. 文化部支援
 - ・吹奏楽 50,000円
 - ・合唱部 50,000円
 - ・美術部 30,000円
3. 全国大会激励金
 - ・放送委員会 30,000円
 - ・テニス部 270,000円

編集後記

まずは今回お忙しい中、原稿や資料を寄稿してくださった同窓会会長様をはじめ皆様に感謝申し上げます。また、遅々として進まない編集作業にお付き合いくださった吾妻印刷様にも感謝申し上げます。私は、今年度四月に福島東高校に赴任してまいりました。自分の母校（十期生です）ということもあり、当時のことを思い浮かべながら、自分が生徒のときに見ていた光景を逆の先生の立場で眺めるのはどのようなものか楽しみにしております。教室も職員室も恐れられていた体育教官室（今でもトラウマで足が向かいません）も全く変わっておらず、懐かしさを感じました。しかし、生徒は変わっていました。もち

ろん男女共学になったということも少なからず関係はあるのかと思います。ガッツで大雑把で勢いだけの東高生がスマートになりすっかり考えて行動する冷静な東高生に変わっています。もちろんまだ足りない部分はありますが、現在の福島東を見て自分たちとの頃とは少し違うという一抹の寂しさも感じますが、それ以上に高校も人と同じように成長し変わっていくことを感じました。人は変わらないう信念を持ちながらも成長を促すために変わっていくかなければならない存在です。変わるという歩みが止まれば成長の歩みも止まってしまいます。福島東高校は変わらないもの「教訓」を持ちながら、常に成長「変化」を続けているのだと思います。そして、その精神が私には当時

あまり感じられなかった福島東高校の三十年の歴史、伝統を作っているのだと思います。歴史のない学校から歴史のある学校へと変貌を遂げている途上にあるのです。そのような学校になれたのはこれまでに関わっていただいたのは先生や保護者や同窓会の皆様のおかげです。感謝申し上げます、更なる「変化」を期待し編集後記といたします。

(朝倉 昭博)

お住まいの方へ

同窓会事務局を名乗る電話が同窓生の自宅にかかってくるという苦情が学校に寄せられることがあります。同窓生の携帯電話の番号や現住所を聞くことが多いようです。事務局では一切このような電話をしておりませんので注意して下さい。なお、このような場合、「東高に確認してみます」と対応して下さい。

同窓会からの連絡は郵送です。電話等による問い合わせは原則的にはしません。どうしても電話連絡が必要な場合は、東高あてに掛け直してもらっています。東高の電話番号は 024-531-1551 です。